



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2016

9月20日号

154  
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

## 通常災害時における 放射線技師の役割



副会長 遊 佐 烈

先日、日放技で災害対策委員会が開催され、そこで全国47都道府県の原子力災害発生時に避難住民等のスクリーニングを行うサーベイチーム結成の状況報告があった。40都道府県でチームが結成され名簿が提出されたが、7県ではサーベイチーム作成には至っておらず、考え方に温度差があるようだ。7県の中には原発立地県も含まれている。原発事故は発生しないという事だろうか。

更に会議の中、通常災害時に放射線技師がどう関わり合うのか、何が出来るのかが話題となった。放射線技師は通常災害時に医師や看護師と違い何が出来るの？何をやるの？という様な扱い方をされたという話をする委員もいた。我々診療放射線技師は原子力災害時にのみ活躍する訳ではないと思う。先の熊本地震の際にDMATのロジスティック（調整員）として参加した診療放射線技師に質問してみた。「原発事故の場合はスクリーナー等の仕事があるが、通常災害時における放射線技師は何か役立つことがあるのだろうか？交通整理やボランティア的な事になるのか？技師会として自治体に協力を申し出る場合、何かアピール出来る事があるとすれば、どんな事があるだろうか？」

彼からの返答は「災害時に病院機能が保たれているのであれば、自身の病院の業務を優先することになると思う。勤務する病院が倒壊の恐れなどで診療が継続出来ない、もしくは撮影機器が使用できないようなケースであれば、放射線技師業務というよりは、病院の指示で患者搬送から交通整理から何でもやらなければならないと思う。熊本地震のケースで、診療継続が出来なくなった熊本市民病院の放射線技師は、我々DMATと一緒に調整員の事務業務をやってくれた方もいた。看護師さんと避難所を巡回したスタッフもあり、とにかく各所に配置されそこで慣れない業務をしたようだ。放射線技師業務として、仮診療所にバスのX線撮影装置、バスのCT装置が配置されそこで業務にあたった方もいた。ここ数年、災害の学会で会う技師と良く話題になるのは、災害時の病院のマンパワーは、大なり小なりバランスが悪くなる。A病院は患者多数で技師の負担増、B病院は機器故障のため技師負担減の場合、どうにか、B病院からA病院に技師を派遣することが出来ないかと思っている。自治体から技師会へ要請、そして技師会を通じて被災地外の病院から技師を派遣する事は出来ないだろうか？」

災害対策委員会でも同じことが議論されたが、いくつかハードルはありそうだ。派遣先での機器操作の不安、技師登録先以外での業務遂行の可否、派遣期間中移動等における保障問題等など。東日本大震災の時、福島県内に全国から大勢の技師が応援に来てくれた。ルール作りの議論も必要だが、目的達成のためなら何とか解決策が見つかりそうなものだと思う。我々もどんな形であれ見ているだけでは無く、何でも出来そうな事から一つずつやってみる覚悟が必要だと考えるのだが皆さんの考えはいかがでしょう？

## ～会長「オンレコ」～

### 1 「県総会等での熊本・

#### 大分地震と野口英世アフリカ賞の募金」

5月28日(土)に県総会が開催されました。その会場で、熊本大分地震と野口英世アフリカ賞の募金を集めました。熊本大分地震の募金は、会津全体会での募金と合わせて45,000円、野口英世アフリカ賞の募金は6,000円が集まりました。ご協力頂いた会員の皆様、ありがとうございました。野口英世アフリカ賞は、6月7日(火)にJICAに振り込みました。

JICAと言えば、バングラディッシュのテロで職員が犠牲になりました。日本から志しを持ち活躍している大事な人達でした。謹んでお悔やみを申し上げます。

熊本・大分地震の募金は、第1回理事会で再度集めてから寄付しました。両県に対して、趣旨を説明し振込先を教えて頂きました。事務局の本田さんより、両県に対して各10万円を振り込んで頂きました。その後に両県会長より、感謝の電話があった事を報告します。

### 2 「技師養成学校に対する県庁との話し合い」

福島県立医科大学の新学部を設置するにあたり、会長の私に7月20日に電話がありました。政府が、震災や復興に関係しないと了承しないので困っている事でした。震災当初から現在までの状況や技師会活動を、口頭で回答しました。また、原子力防災訓練や管理士部会のWBC測定の結果報告についても話しました。その後、理事からの意見を頂き被ばく相談等についてもメールで伝えました。その後もメールでの情報交換を行っています。

今後もお互いに連絡を取り合い、協力を惜しまないつもりでいます。

### 3 「統一講習会の受講」

8月6 - 7日に県南地区で、統一講習会を受講しました。県会長として、皆さんに参加依頼するためにも受講しました。確かに15,000円は高い出費ですが、自己研修や保険と考えてください。ぜひ、多くの会員に受講して頂きたいと考えます。

### 4 「ふくしま医療機器推進機構との面会」

ふくしま医療機器推進機構がセンターを建設し11月オープン予定です。9月にはイベント開催もありますが、後援依頼に来院されました。センターの場所は、奥羽大学近くの新駅の出来るあたりです。各会議室も完備されており、ぜひ利用して欲しいとの事でした。

(100名規模で13,700円、60名で10,700円等)



**会費の納入は  
お済ですか？**

**納入期限は9月末まで  
お早めにおねがいします。**

## 開催報告

### 「業務拡大に伴う統一講習会」

「会津地区、県南地区を終えて」

生涯教育担当 堀江常満

会津地区での開催が今年度最初の統一講習会となりました。医療監視で聞き取りがあった施設もあり、全員が受講を予定する施設があるなど当初の開催が出来るかどうか?!との不安もあったという間に吹き飛び、40名の申込みと受講で嬉しい悲鳴でした。

県南地区開催は、開催下限の20名未満である受講者数19名ではあったが、日放技の理解を得て開催にこぎつけた。受講者数も会津地区の半数でありゆとりを持った実習が行えました。



(写真：BLS実習の様子)



(写真：静脈針抜針実習の様子)

それぞれ、静脈注射講習もほぼすべての受講者を対象とし、班分けされた実習班も皆さん代わる代わる真剣に取り組んでいました。

確認試験も不合格になりそうな方はおらず皆さん合格のことと思います。

連続した2日間であり、勤務の都合などで参加が出来なかった方もお出でかと思えます。

今後、9月24・25日に県北地区(福島県立医科大学附属病院)、11月26・27日に浜通り地区(総合いわき共立病院)での開催がありますので、受講をご検討ください。

### 「第16回福島県乳腺画像研究会」

福島県乳腺画像研究会

会長 平井和子

9月3日(土)福島県農業総合センターにおいて、第16回

福島県乳腺画像研究会を開催いたしました。

マンモグラフィは、ほとんどの施設でデジタル化され、その画質は比較的安定的に提供されています。しかし、画像の良し悪しはアナログと同様にポジショニングに依存することに変わりはなく、ポジショニングの技術を向上させていくことが大切です。

今回は、各施設から実際の臨床画像をフィルムやデータでお持ちいただき、その画像から、ポジショニングを中心とした改善点などについてディスカッションを行いました。

また、「J-START」の大規模調査から、乳腺エコーとの併用検診も今後の課題となっていますので、乳腺エコーの講演も企画し、分かりやすく解説していただきました。

当日は、他にも研究会が開催されていたこともあり、参加者は多くありませんでしたが、講師との距離が近く、分かりやすい内容であったとの感想をいただきました。



(実習:MMG画像からポジショニングについて意見交換を交わす様子)

## 「第8回放射線管理士セミナー」

福島県放射線管理士部会

太田西ノ内病院 笹川克博

平成28年8月20日(土)福島県郡山市の郡山商工会議所において行われました。

東日本大震災から5年が経過した時期に、もう一度放射線管理士に求められている、平常時及び緊急時の活動や課題に焦点をあて、今後も息の長い活動の必要性を社会に訴えるメッセージも込め、第8回放射線管理士セミナーを開催しました。今回は、福島県放射線管理士部会と神奈川県放射線管理士部会の共同開催となりました。



(写真:セミナー参加者のみなさん)

また、特別講演として福島県立医科大学災害医療総合学習センターの副センター長である熊谷敦史先生より講演していただきました。

先生は、被ばく医療の専門家として、福島県内医療人の定着・住民の不安解消・地域復興のために東日本大震災直後より積極的な活動をされており、貴重なお話が聞けました。

開催の挨拶は、神奈川県管理士部会会長の濱田順爾会長よりいただきました。

プログラム第1部は「放射線被ばく相談について」というテーマにて3演題の発表がありました。JARTで行っている放射線被ばく相談員の講習会は、とても有意義なものでリスクコミュニケーションを考えるうえで、大変役立つ講習であり、是非受講した方が良いということでした。

田村市WBC(ホールボディーカウンター)測定時の結果説明では、地元出身の診療放射線技師が対応することで測定者に安心感があるとの事でした。また、田村市WBCの傾向としては、測定希望者が減少し固定化しつつあるも、放射性セシウムが検出される傾向が見えてきた。というのが、震災から5年たってわかってきたとの事でした。

放射線管理士の責務と放射線業務に対する第三者認定制度の発表では、今後、放射線診療は、今まで以上に説明責任・安全性・線量把握・防護の最適化がもめられ、第三者機関認定制度が有用になるとの事でした。

プログラム第2部は「管理士部会活動報告とスクリーニング検査について」というテーマにて3演題の発表と実習がありました。まず、名称が、避難者に対する表面汚染スクリーニング及び物品のスクリーニングから、避難退避時検査へ変更があった。という報告がありました。神奈川、福島両管理士部会からの報告があり、原子力防災訓練およびN A Sチームによるスクリーニングサーベイの方法であるセグメント法の説明、実習が行われ、参加者全員が実習を行い、セグメント法の理解を深めました。



(写真:スクリーニングサーベイの実習)

特別講演・実習では「東日本大震災から5年を経て診療放射線技師に求めること」というテーマにて福島県立医科大学災害医療総合学習センター 副センター長の熊谷敦史先生より福島県の現状を説明していただきました。



(写真:講演の様子 講師:熊谷敦史先生)

押さえておきたい福島の放射線健康リスクということで、事故直後の外部被ばく、その後の生活での被ばく、甲状腺について、水や食品について、セシウム以外の核

種についての話がありました。実際、先生が把握しているデータは、メディアに出ているもの、出ていないものがあり、大変興味深いものでした。正しい情報、嘘偽りの情報が入り乱れて発信されている状況の中、真の正しい情報だけをピックアップして判断していくのは、非常に大変であると思いました。判断していくためにも、放射線管理士の知識が生かされると思いました。

今回の管理士セミナーの参加者は30名で、共催である神奈川県をはじめ宮城県、山形県、群馬県からも参加者があり、活発な意見交換がなされました。

今後、このようなセミナーをもっと多くの都道府県の

放射線管理士部会及び、放射線管理士の皆様と連携してより良いものにしていきたいと思えます。



(写真：他県から参加された皆さんとの意見交換)

## 地区だより

### 浜通地区

#### 「Piranihaを使用した線量測定」開催

8月、いわき支部にて、piranihaを使用した線量測定を各施設で行いました。

当労災病院も8月8日に線量測定を行う予定でしたが、当日は検査が多く当院技師が測定するための手が足りず行うことができませんでした。そこで、piranihaを持ってきていただいた常磐病院の技師の方に線量測定をしていただきました。来年度は、施設の機器管理の意味もあるので自分たちで測定を行いたいと思えます。(菅原)

### 県南地区

#### 「県南地区サマーセミナー」開催

平成28年7月30日(土)郡山市ビックアイ7階第一会議室において県南地区サマーセミナーが開催されました。梅雨が明けた郡山は大変晴れ、勉強熱心な会員36名が出席されました。

今回の講演内容は、「次世代のMR高速撮像技術」、「シーメンスCT装置の最新技術」と題し、各GEヘルスケア・ジャパン株式会社、シーメンスヘルスケア株式会社の2社より講師をお招きしご講演いただきました。現在開発中のソフトや、機器の歴史やこれからの可能性について貴重な情報を提供していただきました。(県南地区事務局 山口)



(写真：セミナーの様子)

### 県北地区

#### 「県北地区夏季勉強会および交流会」開催

8月27日(土)福島市テルサ4F「つきのわ」において県

北地区夏季勉強会および交流会が開催されました。

講演は以下の内容です

「業務拡大に係る統一講習会について」

福島県診療放射線技師会 新里昌一会長

「外科医が望む画像とは」

福島県立医科大学 器官制御外科学講座

講師 門馬智之先生

初めに新里会長より統一講習会の現在の状況とその重要性について講演があり、次に外科医の立場から必要な画像診断について、門馬先生より解りやすい講演があり大変勉強になる内容でした。



(写真：講演の様子)

勉強会終了後に交流会が開催され貴重な情報交換の場となっていました。(安藤)

### 【メールマガジン登録方法の案内】

メールマガジン配信を希望する方は  
fart@star7.jp

に空メール(件名・本文なし)を送信して下さい。  
登録完了メールが届きます。以上で登録完了です。

メールマガジンでは、分科会、勉強会、学術講演会、地区行事開催案内等のお知らせ、また緊急に会員の皆様にお知らせする内容などについて配信いたします。

## 編集後記

9月に入り暑さも落ち着いてきました。オリンピックに盛り上がった夏、4年に一回しかない大会を頑張る選手の姿は輝いていました。

わたしも目標を明確にもって頑張らねばと思うこの頃、4年後も楽しみです。(安藤)